

吉川市の状況

1 人口

当市の人口は、令和3年度以降、減少傾向にあります。年齢別人口では、0～6歳、7～18歳の区分は減少していますが、19歳以上の区分では増加しています。

単位：人

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	前年比
0～6歳	4,800	4,740	4,596	4,473	4,270	4,028	△242
7～18歳	9,071	9,031	8,989	8,919	8,904	8,830	△74
19～64歳	42,051	42,237	42,256	42,392	42,303	42,369	66
65歳以上	16,528	16,869	17,173	17,433	17,566	17,645	79
合計	72,450	72,877	73,014	73,217	73,043	72,872	△171

※吉川市人口統計（各年4月1日現在）

2 要介護（要支援）認定者数

要介護（要支援）認定者の合計は年々増加しており、令和4年度を平成29年度と比較すると5年間で3割以上の増加となっています。

単位：人

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	前年比
総合事業対象者	165	158	144	135	106	99	△7
要支援1	270	300	299	287	297	291	△6
要支援2	217	243	264	271	306	332	26
要介護1	484	551	602	660	707	714	7
要介護2	331	325	333	381	414	421	7
要介護3	261	254	280	323	321	321	0
要介護4	242	255	233	263	293	306	13
要介護5	201	208	236	222	226	248	22
要介護・要支援合計	2,006	2,136	2,247	2,407	2,564	2,633	69

※各年3月31日現在

3 障害者手帳所持者数

身体障害者手帳所持者は減少傾向にありますが、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳の所持者は増加しています。

単位：人

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	前年比
身体障害者手帳	1,736	1,725	1,727	1,733	1,718	1,708	△10
療育手帳	457	472	505	522	549	569	20
精神障害者保健福祉手帳	444	509	567	617	675	735	60

※各年3月31日現在

4 3歳児でむし歯のない者の割合

3歳児でむし歯のない者の割合は年度により増減がありますが、第1次計画に定めた目標値の86.0%はいずれの年度も達成できています。

単位：%

	H29	H30	R1	R2	R3	目標値 (R3) 86.0%
吉川市	89.0	87.5	90.0	95.0	92.2	
埼玉県平均	86.6	87.8	89.1	89.5	91.2	

※埼玉县市町村別歯科保健データ

5 3歳児の一人平均むし歯数

3歳児の一人平均むし歯数は平成30年度に増加したものの、その後は減少傾向にあり、直近2年は県平均を下回っています。

単位：本

	H29	H30	R1	R2	R3
吉川市	0.36	0.45	0.36	0.29	0.19
埼玉県平均	0.45	0.41	0.36	0.34	0.27

※埼玉县市町村別歯科保健データ

6 12歳児でむし歯のない者の割合

12歳児でむし歯のない者の割合は県平均とほぼ同水準にあり、第1期計画に定めた目標値を達成できています。

単位：%

	H29	H30	R1	R2	R3	目標値 (R3) 70.0%
吉川市	79.76	75.11	75.8	75.4	79.1	
埼玉県平均	71.68	73.62	74.2	76.7	78.2	

※埼玉県教育局県立学校部保健体育課、さいたま市教育委員会学校教育課健康教育部健康課 (H29~30)、埼玉县市町村別歯科保健データ (R1~)

7 12歳児の一人平均むし歯数

12歳児の一人平均むし歯数は年度によりばらつきがありますが、いずれの年度も県平均を下回っています。

単位：本

	H29	H30	R1	R2	R3
吉川市	0.31	0.41	0.29	0.46	0.29
埼玉県平均	0.64	0.59	0.57	0.55	0.50

※埼玉县市町村別歯科保健データ

8 ライフステージ等に応じた取り組み

(1) 妊娠期

母子手帳交付時の指導

子育て世代包括支援センター(保健センター内)にて母子健康手帳を交付する際に、妊娠期における歯科口腔保健の重要性について周知し、リスクが高いと思われる方には指導を実施している。

妊娠届出数

H29	H30	R1	R2	R3	R4
628人	604人	609人	554人	493人	486人

パパママ学級での歯科保健の講義

年6回(4回コース)実施している「パパママ学級」(平成30年度に「母親(両親)学級」から「パパママ学級」に名称変更)において、妊娠期及び乳幼児の歯科保健の講義を実施。令和元年度は、休日開催を2回追加した。令和2年度はコロナ禍のため4~7月は中止し、8月に開始したが、令和3年2~3月は2回コースに短縮。それ以降は、2回コースを年6回実施している。

パパママ学級参加者数

H29	H30	R1	R2	R3	R4
97人	123人	174人	125人	137人	141人

無料妊婦歯科健診の普及・啓発

歯科医師会作成の無料妊婦歯科健診のお知らせを母子手帳交付時やパパママ学級時に配布し、事業の周知を図っている。

(2) 未就学・就学期

にこにこ歯みがき教室の実施

歯科医師が歯のはえ始めの乳児の歯みがき指導を実施。令和2年3月からコロナ禍の影響により中止したが、令和3年度から感染防止対策を講じて再開した(2か月に1回)。

にこにこ歯みがき教室の参加乳児数

H29	H30	R1	R2	R3	R4
143人	107人	88人	0人	24人	46人

目標値(R3)

190人

保育所、幼稚園、学校における取り組み

令和3年度はコロナ禍のため、歯みがき指導を中止するところもあったが、令和4年度から再開。フッ化物洗口もコロナ禍前に実施していた小学校3校、中学校1校が再開している。

むし歯予防におけるフッ化物局所応用の知識の普及

1歳8か月児健診、3歳4か月児健診で保護者にリーフレットを配布。

子どもへのフッ化物塗布事業の実施

むし歯予防のため、歯科医師による診察及び歯科衛生士による子どもへのフッ化物塗布を保健センターにて実施(年6回)。

フッ化物塗布利用者数

H29	H30	R1	R2	R3	R4
222人	188人	168人	143人	132人	121人

子どもの歯科健診とブラッシング指導の実施

乳幼児健診(年48回)において歯科健診及び保護者へのブラッシング指導を実施。

保護者への啓発活動/リスクの高い子どもの把握と指導

乳幼児健診や家庭訪問等において歯科口腔ケアの重要性を啓発。特に歯科口腔の健康リスクが高いと思われる子どもへの対応を重視している。

(3) 成人期

集団健診における歯科健診の実施

口腔内の疾病の早期発見・早期治療を促進するため、集団健診会場において歯周疾患検診を実施。歯科衛生士によるブラッシング指導も実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、受診者が減少。令和3~4年度は、歯周疾患検診を実施できなかった。令和5年度は16回開催予定。

集団健診における歯周病検診の受診者数

H29	H30	R1	R2	R3	R4	目標値(R3)
261人	301人	289人	124人	0人	0人	310人

かかりつけ歯科医師による定期健診の啓発/各種啓発の充実

妊娠届出時や乳幼児健診、集団フッ化物塗布の際にかかりつけ歯科医師の必要性を啓発している。また、「歯と口の健康週間」がある6月と2月頃、「広報よしかわ」に歯科医師による啓発記事を掲載し、歯科保健に関する情報を提供している。

(4) 高齢期

「8024よい歯のコンクール」を実施

「8024よい歯のコンクール」を実施し、自分の歯を多く維持している方を表彰。令和2年度からは、90歳で自分の歯を20本以上維持している方を対象に特別賞を設定し、令和3年度2名、令和4年度1名を表彰した。

「8024よい歯のコンクール」受賞者数

H29	H30	R1	R2	R3	R4	目標値(R3) 25人
28人	25人	27人	18人	42人	36人	

健康長寿歯科健診の実施（埼玉県後期高齢者医療）

平成28年度から埼玉県後期高齢者医療広域連合が75歳を対象とする歯科健診を実施。令和2年度からは対象が75歳と80歳に拡大。実施項目は、問診、歯・義歯の状況、咬合の状況、口腔内の衛生状態等に関する診査及び口腔機能評価（反復唾液嚥下回数テスト）。受診後、フレイルの疑いのある方（BMI21.5未満かつ反復唾液嚥下回数テスト30秒3回以下）については保健指導対象者として市に報告があり、市が実施する運動教室を案内している。

健康長寿歯科健診受診者数

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
通知者数	801人	806人	849人	1,325人	1,233人	1,557人
受診者数	55人	70人	91人	101人	105人	169人
受診率	6.9%	8.7%	10.7%	7.6%	8.5%	10.9%

歯科口腔機能維持の重要性の啓発

いきいき運動教室（介護予防教室）にて吉川歯科医師会推奨の“なまらん口腔（こうくう）体操”を実施。令和元年度は、歯科衛生士による「口腔機能低下予防」の講座（90分）を組み込んだ。（75歳からの）はつらつ運動教室（介護予防教室）では、プログラムに“口腔機能の向上プログラム”を取り入れている。

かかりつけ歯科医師による定期健診の啓発

高齢期に至っても定期健診の受診を続けるよう、かかりつけ歯科医による啓発を実施。

(5) 要介護者・障がい者

相談窓口等の周知・案内

「障がい福祉サービスガイド」に在宅歯科医療推進窓口地域拠点・支援窓口を掲載し、歯や口の悩みがある方や歯科通院が困難な方への歯科医療などの相談先を紹介している。

福祉施設における口腔ケアの推奨

発達に遅れのある子どもの通いの場である発達センターにおいて、歯科健診及びフッ素塗布を実施している。

セルフケアの啓発

ケアマネジャーの会議等の機会を捉え、在宅歯科医療推進窓口地域拠点・支援窓口の紹介や口腔ケアの重要性についての説明を行っている。